



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月13日

上場取引所 札

上場会社名 健康コーポレーション株式会社

コード番号 2928 URL <http://www.kenkoucorp.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 瀬戸 健

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 香西 哲雄

TEL 03-5337-1337

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	8,481	84.2	△459	—	△515	—	49	—
26年3月期第1四半期	4,603	14.8	△592	—	△567	—	△414	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 87百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 △415百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	1.60	—
26年3月期第1四半期	△13.43	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	29,658	5,516	16.7
26年3月期	27,948	5,675	18.4

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 4,950百万円 26年3月期 5,142百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	—	6.73 ～7.48

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,522	91.3	△574	—	△713	—	△442	—	△14.34
通期	37,062	55.0	2,018	79.0	1,931	48.2	1,153	△57.3	37.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 2社 (社名) 株式会社DropWave、株式会社アンティローザ、除外 1社 (社名) 株式会社クリアベルデ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	30,859,000 株	26年3月期	30,859,000 株
27年3月期1Q	— 株	26年3月期	— 株
27年3月期1Q	30,859,000 株	26年3月期1Q	30,859,000 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 9
(重要な後発事象)	P. 10

当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成26年9月4日(木)・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

上記説明会のほかにも、当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年6月30日）における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、弱い動きも見られました。

このような経営環境の下、当社グループは最大の強みである広告宣伝活動を活かした事業シナジーの最大化に取り組んでまいりました。また、株式会社DropWaveの株式を取得し、ゲーム及びスマートフォン技術とゲーム開発で培ったエンターテインメントサービスノウハウ及び最先端のIT技術を活用することでネットマーケティングの集客力を飛躍的に向上させ、加えて従来のTVやラジオ等のマスメディアを通じた集客スキームと連携することでメディアミックスによる効果的な広告宣伝活動を行うことが可能になりました。さらに株式会社アンティローザの株式を取得し、アパレル関連事業のグループシナジーの強化を行ってまいりました。

RIZAP株式会社が運営するパーソナルトレーニング事業のRIZAPにおいては、大型店2店舗を新規出店し、店舗の拡大を進めるとともに、媒体用撮影にLESLIE KEE氏(※)を起用してブランド訴求力を高めたCM放映や広告出稿等、高付加価値を訴求した広告宣伝活動を積極的に進めました。その結果、過去最高の売上高、想定以上の営業利益を計上することができ、予算を大幅に上回ることとなりました。加えて、多数のお客様にお待ちいただいております。セッション開始により第2四半期以降の売上に大きく寄与することになります。また、株式会社アスティは株式会社JG Beautyを吸収合併し、商号を株式会社ジャパングヤルズSCに変更して販路を共通化いたしました。

(※)LESLIE KEE氏・・・写真家として東京をベースにVOGUE、Harper's BAZAARなどの世界のファッション誌や広告、CDジャケットなど幅広く活動中。

当社の通販事業におきましては、新規顧客獲得のためTVCMをはじめとする積極的な広告宣伝活動を実施いたしました。なお、当社のビジネスモデルとして、事業年度の上期において積極的に広告宣伝費を投下することで新規顧客を獲得し、下期においては広告宣伝費を抑制し、上期で獲得した新規顧客等によるリピート購入によって利益回収を行うため、毎期、第1四半期から第2四半期にかけては広告宣伝費を主とした販売費が増加し営業損失を計上する傾向となります。当第1四半期連結累計期間において広告宣伝活動にかかる費用対効果が良く、「どろあわわ」は先行投資を行った結果、前同四半期連結累計期間に比べて新規獲得顧客数が1.5倍に増えており、今後のリピート購入による売上高の増加・利益の増加が期待できます。また、「ひとてまい」は前同四半期連結累計期間に比べて売上高が4.7倍に増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高8,481百万円（前第1四半期連結累計期間は4,603百万円）、営業損益△459百万円（前第1四半期連結累計期間は△592百万円）、経常損益△515百万円（前第1四半期連結累計期間は△567百万円）、子会社間の合併の効果により四半期純損益は49百万円（前第1四半期連結累計期間は△414百万円）となりました。

セグメント別の事業概況は、次のとおりであります。

#### (美容・健康関連事業)

美容・健康関連事業は大きく分けて「美容関連分野」と「健康食品分野」になり、美容関連分野は当社を中心に、株式会社ジャパングヤルズ、株式会社ジャパングヤルズSC及びRIZAP株式会社が事業を行っており、健康食品分野は当社と株式会社ジャパングヤルズSCを中心に事業を行っております。また、エムシーツー株式会社が美容関連・健康食品両分野においてコールセンター事業による販売支援活動を行っており、株式会社DropWaveが主にRIZAP株式会社のシステム構築・当社ウェブサイトの改良を行っております。

この分野における当社通販事業におきましては、当第1四半期に積極的な広告宣伝活動を行ってまいりました。「ESTENAD（エステナード）」シリーズは苦戦したものの、「どろあわわ」は紙媒体広告経由の新規顧客獲得が好調に推移しました。今期重点商品である「ひとてまい」はTV中心のプロモーションを行い、好調に推移し、「元源黒酢」は紙媒体広告による集客が苦戦しましたが、TV経由による集客が好調に推移しました。施策面では、定期購入顧客に関する継続率向上の取り組み、サンプル購入顧客を定期購入顧客へ引き上げる取り組み及び新規クリエイティブやインフォーマーシャルの開発に注力してまいりました。

美容・健康関連事業におけるグループ会社の事業につきましては、RIZAP株式会社は当社プロデュースによる積極的な広告宣伝活動が奏功し、新規獲得会員数が伸長し、累計16,000人を超えました。また、物販において定期購入の試験導入を行う等、サービスプログラムの向上に取り組みました。株式会社ジャパングヤルズは脱毛器の販売が堅調に推移し、株式会社ジャパングヤルズSCは、春夏商材の導入の遅れがありましたが、会社合併による販路拡大に注力してまいりました。

この結果、美容・健康関連事業での売上高は4,500百万円（前第1四半期連結累計期間は3,280百万円）、営業損益は△298百万円（前第1四半期連結累計期間は△541百万円）となりました。

#### (アパレル関連事業)

アパレル関連事業は、マタニティウェアや出産内祝いギフト等を販売する株式会社エンジェリーベ、婦人既製の企画、製造販売する株式会社馬里邑、当第1四半期連結累計期間よりグループ入りした婦人服、紳士服の企画及び販売する株式会社アンティローザが事業を行っております。

株式会社エンジェリーベは三井アウトレットパーク幕張チュールリップコートにアウトレット店舗を試験出店し、ウェブサイトのDeNAショッピング及び永久不滅.comに出店を行い、販売チャネルを拡大するとともに、株式会社馬里邑と共同で本社・倉庫移転等を行い、コスト改善に努めて経営再建を進めております。株式会社馬里邑及び株式会社アンティローザがグループ入りしたことにより、売上高が増加したものの経営再建中の株式会社エンジェリーベの損失が影響し営業損失となりました。今後は当社によるブランド力向上による販売施策の実施、三社の販路の相互活用やRIZAP顧客のダイエット後の衣服の買い替え需要への取り組み等、グループシナジーの最大化に注力してまいります。

この結果、アパレル関連事業の売上高は992百万円（前第1四半期連結累計期間は482百万円）、営業損益は△61百万円（前第1四半期連結累計期間は△77百万円）となりました。

#### (住関連ライフスタイル事業)

住関連ライフスタイル事業は、株式会社アイデアインターナショナルが住関連ライフスタイル商品の企画・開発・製造及び販売を行っております。当第1四半期連結累計期間において「Travel Shop Gate キラリナ京王吉祥寺」、「Terracuore キラリナ京王吉祥寺」の2店舗を出店し、「BRUNO SHOP 蔦屋代官山」を10日間の期間限定で出店を行い、販売拡大に努めましたが、消費税増税後の反動による影響やキッチン家電商品の入荷遅れ、OEM受注の減少等の影響により、売上高が想定に届かず、その影響により営業損失となりました。

この結果、住関連ライフスタイル事業の売上高は1,179百万円、営業損益は△17百万円となりました。

今後は当社によるブランド力向上による販売施策の実施、アパレル関連事業三社とのナレッジ・物理的リソースの共有化等、グループシナジーの最大化に注力してまいります。

現状において販売体制の建て直しは完了しており、足元の状況としては直営店の販売が好調であり、さらに当社の販売支援によるEコマースの強化等によりグループシナジーが実現しつつありますが、加えてより大幅な利益面の改善を図るべく諸施策を実施してまいり所存であり、株式会社アイデアインターナショナルにおいては通期で大幅な利益改善に取り組み進捗中でございます。

#### (エンターテインメント事業)

エンターテインメント事業は、株式会社ゲオディノス（現SDエンターテインメント株式会社）が事業を行っております。社名を「SDエンターテインメント株式会社」と社内決定（正式には平成26年7月1日より変更）し、ブランド名「スガイディノス」を復活させたのを機に、アルバイト従業員まで含めた店舗毎のインセンティブ制の導入などの営業活性化策をはじめ、不採算施設の改革に着手しました。また、一方では、休止固定資産関連費用の出血を全て止めたことをはじめ、様々な分野における固定費の圧縮にも取り組み、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパーク事業を前グループ会社に資産譲渡したことや不採算店舗の撤退等に伴う売上減を補うべく、事業部制の筋肉質な組織に体質改善いたしました。

また、平成26年4月に「RIZAP（札幌スガイディノス店）」を出店し、さらには将来を見据えて、スマホアプリ制作会社の株式会社DropWaveへ出資、業務提携し、最新IT技術を活用した集客強化の取り組みに着手しており、グループ内協業を進めてまいりました。

この結果、エンターテインメント事業の売上高は1,809百万円、営業損益は29百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.2%増加し、14,871百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が490百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて9.2%増加し、14,721百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて6.1%増加し、29,658百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて10.4%増加し、15,102百万円となりました。これは主として、未払金が838百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて5.3%増加し、9,039百万円となりました。

この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて8.4%増加し、24,141百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて2.8%減少し、5,516百万円となりました。これは主として、利益剰余金が192百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績はRIZAP株式会社及び当社通販事業を中心に順調に推移いたしました。新規顧客獲得も順調に推移しており、第2四半期以降においても業績予想どおり前期を大幅に上回る売上高・利益の計上が見込まれており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきまして平成26年5月23日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、平成26年4月11日付で株式取得により株式会社DropWave及びその子会社株式会社フロンティアウェーブ並びに平成26年5月23日付で株式取得により株式会社アンティローザが当社の連結子会社となりました。なお、株式会社フロンティアウェーブは当社の特定子会社には該当いたしません。

平成26年6月1日付で、株式会社アスティは株式会社JG Beautyを吸収合併し、商号を株式会社ジャパングャルズSCに変更して、株式会社ジャパングャルズの完全子会社となりました。

株式会社クリアベルデは平成26年6月30日付で解散を決議し、現在清算手続き中のため、連結子会社でなくなりました。

この結果、平成26年6月30日現在では、当社グループは、当社と連結子会社15社及び非連結子会社5社により構成されることとなりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,373,134	4,385,307
受取手形及び売掛金	5,509,321	6,000,022
商品及び製品	2,520,417	2,511,411
仕掛品	28,932	53,288
原材料及び貯蔵品	449,636	438,144
その他	2,091,341	2,078,647
貸倒引当金	△567,810	△594,941
流動資産合計	14,404,973	14,871,880
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,451,577	4,475,072
土地	2,748,974	2,748,974
その他(純額)	1,858,895	1,983,515
有形固定資産合計	9,059,448	9,207,562
無形固定資産		
のれん	1,585,255	2,144,022
その他	287,376	293,345
無形固定資産合計	1,872,632	2,437,367
投資その他の資産		
投資有価証券	117,222	120,663
その他	2,446,130	3,065,774
貸倒引当金	△11,622	△109,746
投資その他の資産合計	2,551,730	3,076,691
固定資産合計	13,483,811	14,721,621
繰延資産	59,913	65,301
資産合計	27,948,697	29,658,804

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,844,745	1,705,070
未払金	1,550,883	2,389,223
短期借入金	2,121,645	2,122,789
1年内返済予定の長期借入金	3,140,394	3,100,878
未払法人税等	261,687	109,127
賞与引当金	69,090	50,965
返品調整引当金	129,923	103,785
その他	4,566,997	5,520,785
流動負債合計	13,685,367	15,102,623
固定負債		
社債	2,602,300	2,915,900
長期借入金	4,017,477	4,574,232
役員退職慰労引当金	4,158	4,158
退職給付に係る負債	39,234	38,866
その他	1,924,620	1,506,163
固定負債合計	8,587,789	9,039,320
負債合計	22,273,157	24,141,944
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	189,250	189,250
利益剰余金	4,850,909	4,658,308
株主資本合計	5,140,160	4,947,558
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,549	3,144
その他の包括利益累計額合計	2,549	3,144
新株予約権	5,246	4,819
少数株主持分	527,585	561,338
純資産合計	5,675,540	5,516,860
負債純資産合計	27,948,697	29,658,804

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	4,603,702	8,481,314
売上原価	2,109,190	3,189,125
売上総利益	2,494,512	5,292,189
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,649,060	2,134,083
その他	1,437,675	3,617,613
販売費及び一般管理費合計	3,086,736	5,751,697
営業損失(△)	△592,224	△459,507
営業外収益		
受取利息及び配当金	6	1,264
受取賃貸料	415	-
匿名組合投資利益	31,060	-
その他	13,672	14,283
営業外収益合計	45,155	15,548
営業外費用		
支払利息	19,061	60,471
その他	1,635	11,445
営業外費用合計	20,697	71,916
経常損失(△)	△567,765	△515,876
特別利益		
固定資産売却益	-	147,720
その他	-	365
特別利益合計	-	148,085
特別損失		
固定資産除却損	9,487	2,485
その他	155	13,723
特別損失合計	9,643	16,208
税金等調整前四半期純損失(△)	△577,408	△383,998
法人税、住民税及び事業税	76,148	96,021
法人税等調整額	△238,924	△567,035
法人税等合計	△162,775	△471,013
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△414,633	87,014
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△111	37,533
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△414,521	49,481

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△414,633	87,014
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△641	594
その他の包括利益合計	△641	594
四半期包括利益	△415,274	87,609
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△415,162	49,703
少数株主に係る四半期包括利益	△111	37,906

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容・健康 関連	食品関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンターテ イメント	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,280,726	840,836	482,139	—	—	4,603,702	—	4,603,702
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,061	10,127	—	—	—	20,188	△20,188	—
計	3,290,788	850,963	482,139	—	—	4,623,891	△20,188	4,603,702
セグメント利益又は 損失(△)	△541,132	133,203	△77,232	—	—	△485,160	△107,063	△592,224

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容・健康 関連	食品関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンターテ イメント	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,500,118	—	992,740	1,179,101	1,809,354	8,481,314	—	8,481,314
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	36,878	52,989	—	89,868	△89,868	—
計	4,500,118	—	1,029,618	1,232,091	1,809,354	8,571,183	△89,868	8,481,314
セグメント利益又は 損失(△)	△298,135	—	△61,999	△17,911	29,707	△348,338	△111,169	△459,507

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、株式会社イデアインターナショナル及び株式会社ゲオディノス(現SDエンターテイメント株式会社)が連結子会社となったこと並びに株式会社弘乳舎が連結子会社でなくなったことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、従来の報告セグメント「美容・健康関連事業」「食品関連事業」「アパレル関連事業」から「美容・健康関連事業」「アパレル関連事業」「住関連ライフスタイル事業」「エンターテイメント事業」に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「美容・健康関連」及び「アパレル関連」セグメントにおいて、(企業結合等関係)に記載の企業結合に伴い、当第1四半期連結累計期間にのれんがそれぞれ196,099千円、412,972千円発生しております。

(重要な後発事象)

子会社株式の追加取得(第三者割当増資による株式引受)  
 共通支配下の取引等

当社は、平成26年7月14日開催の取締役会において、株式会社ジャパングヤルズSCと共同で株式会社イデアインターナショナルによる第三者割当増資を引受けることを決議いたしました。その概要は以下のとおりであります。

(1) 取引の概要

①結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称	株式会社イデアインターナショナル(当社の連結子会社)
事業の内容	住関連ライフスタイル商品の企画・開発及び販売 化粧品等の製造・販売、医薬部外品の製造・販売等

②企業結合日

平成26年7月31日

③企業結合の法的形式

第三者割当増資による株式引受

④結合後企業の名称

変更ありません。

⑤その他取引の概要に関する事項

このたびの株式会社イデアインターナショナルの増資は、同社の事業を継続するうえで必要不可欠となる運転資金調達を目的とするものである点、当社が本増資を引受けることによる自己資本の増強が同社の金融機関及び仕入先等の取引先からの信頼の確保という見地からも望ましい点を勘案し、当社が行う第三者割当増資を引受けることといたしました。

⑥取得した議決権比率

	当社所有	当社グループ所有
企業結合日前に所有していた議決権比率	72.39%	77.84%
企業結合日に取得した議決権比率	△2.50%	2.11%
取得後の議決権比率	69.89%	79.95%

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(3) 子会社株式の追加取得に関する事項

①当社

取得の対価 69,083千円

②株式会社ジャパングヤルズSC

取得の対価 80,924千円